

ACEF ボランティア活動レポート 2017～2018年（順不同）

年齢 職業	15歳女性 学生
活動期間	約2か月
活動内容	<p>ACEFの活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、孤児院でのペイント（壁画） ・小学校、孤児院、女子高での歌ライブ <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スラム訪問
感想	<p>キベラスラム編：</p> <p>テレビや本で見ていたままの世界が目の前に現れたが、作り物の世界のように感じた。事前に、自分自身でスラムを見たら、どんなリアクションをするのかと思ってたが、第一印象はびっくりでも感動なく「本当にあるんだ…」だった。時間と共に現実味がおびてきた。ゴミだらけの中を遊びまわる子ども達、ボロボロの服で学校から帰ってくる子ども達。自分が想像していたのと一番違ったのは、みんな笑顔であるということ。この現実を知らず、彼らが笑顔であることを知らない人達は、スラムで生活している人達のことを可哀そうだと思うかもしれない。でも現実を知らずにただ可哀そうと思っている人より、私は現実を知ることが出来、幸せだと思った。</p> <p>ケニアに来て思い出した夢がある。小さい頃の大きな夢。それはこの目でスラムを見ること。スラム見学の話が出るまで忘れていたのに。この目で見れて良かった。本当に良かった。</p> <p>帰国して、「何が一番楽しかったか？」と聞かれる。私はストリートチルドレンに出会えたことと、キベラスラムへ行ったこと、と答えている。</p> <p>マキマ（エイズ孤児院）編：</p> <p>1週間かけて、女子寮の入り口にペイントをした。ケニアの地に私の印、足あとを残せたことは本当に大きなことで、私だけではなく、関係者みんなが喜んでくれた。絵の構成は「木を描く」ことだけを決め、あとはその場で、と思ってその壁を前にしたら、完成図が写真のように浮かんできた。作業ペースもスムーズでこれは私が描いているだけで、誰かに描かされているのかも、と思うほど。その間は、孤児院の世話係の人たちや子ども達と一緒に生活し、絵を描くのを手伝ってもらった。毎食ケニア食だったが全然平気で、むしろ好きになったくらいだった。</p> <p>帰国して：</p> <p>大きく変わったことはこれまで苦手だった外に出ることや、電話で話すことが苦でなくなったこと。「わからなければ聞けばいい」と思えるようになったから。ケニアに行ってから、苦手だったことを克服するたび、ケニアに行ったら良かったと思う。また行きたい。本気でそう思える場所に出会った。ケニアに行ったことは私のこれからの人生に大きな力となるだろうと思う。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	21歳男性 大学生
活動期間	約1か月
活動内容	<p>ACEFの活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マキマの孤児施設訪問 ・エンブ小学校の授業参加 <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マサイマラサファリ探検 ・ケニアのクリスマスとお正月を体験 ・モンバサで、奴隷貿易についての歴史を学ぶ ・ケニアで働く日本人との交流 ・キベラスラム訪問 ・ニヤフルルのサッカーチーム指導
感想	<p>一か月という短い間でしたが、多くの方にお世話になりました。本当にありがとうございました。</p> <p>ケニアに来るまでは、アフリカという地は自分にとってあまりに未開の地であり、少し恐怖を感じている部分もありました。しかし、いざ足を踏み入れてみると、環境や文化、人柄など、想像していたよりも素敵な国でケニアのことが好きになりました。</p> <p>しかし、ケニアにはまだまだ多くの問題もあります。スラムの生活や貧しい子ども達、環境問題を目の当たりにしたときに、もっと多くの改革や支援が必要であり、日本人もアフリカに対して何か残すことはできるのではないかと強く思いました。</p> <p>必ずまたケニアに戻ってきます。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	20歳女性 大学生
活動期間	約2週間
活動内容	<p>ACEFの活動：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マキマ エイズ孤児院視察 <p>その他：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ストリートチルドレンへの給食支給補助 ・スラム訪問
感想	<p>2週間という非常に短い期間での参加だったが、その中で様々は経験が出来た。大学では開発学を専攻しているので、開発という視点から活動に参加した。小学校や孤児院、スラムなどの視察を通して常に感じたのが、人々の明るさや生活力の強さで、漠然と抱いていた途上国の暗いマイナスなイメージが大きく変わった。また実際に貧富の差もスラムやストリートチルドレンなどを通して見る事ができた。小学校では授業の内容や教師の質に着目して見学した。少なくともエンブの小学校では教育の質がとても高く、たま勉強自体を楽しんでできるような先生たちの工夫が見られ、大変興味深かった。</p> <p>今回の活動を通して、様々な課題も知ることができた。</p> <p>例えば、どの地域でも見受けられたが、特にスラムでの多かったゴミ問題は今後解決すべき大きな問題だと感じた。</p>
意見・改善点など	

年齢 職業	30代女性 教員
活動期間	約10日間
活動内容	<p>ACEFの活動:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エイズ孤児院訪問、寮母さんへのインタビュー、子どもたちの生活状況の把握 ・病院(エンブ、エナ)の見学 ・近隣看護学校の見学 ・マガジン作成の際の撮影見学とちょっとだけサポート ・エコバックプロモートの撮影協力、見学(同行) ・小学校日本語授業の見学 <p>その他:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA ケニア事務所保健省担当者との面談 ・ナイロビ大学看護学部 学部長訪問 ・ケニヤッタナショナルホスピタル内のキャンパス見学 ・Forest Japan Diagnostic Centre の見学 ・マサイマラ国立保護区2泊3日(前後ナイロビ) ・ナイロビ市内観光 マーケット、サファリパークホテルのショーなど
感想	<p>設置主体の違う病院やクリニック、看護学校、看護大学の見学ができたことで、ざっとではあるが、ケニアの医療事情を日本と比較しながら見ることができた。</p> <p>柔軟にその希望を実現できるようにコーディネートしていただけたことにとっても感謝している。どの施設もシミュレーターやモデルが長年大切に使われてきており、また对患者に実践という形でトレーニングが進んでいる実態をみたように思う。</p> <p>日本やアメリカなどは对患者に無資格者である看護学生が実施する機会が少なくなり、医療の質の観点からも患者に直接よりはシミュレーターを中心にと移行してきている実情からは大きく離れているところで、看護倫理としての視点も必要で、今後どうのようにしていくか転換も必要に感じられた。</p> <p>看護師の雇用のプロセスや職務記述書の有無、あるならばその記載内容など看護管理(自分の専門分野に関する内容)に関することが見られると、より深く学ぶことができたかと思うし、今ある課題をおぼろながらに見出していくことができたかと思う。日本の看護師の技術面の能力は年々低下しており、基礎教育の難しさを日々感じている。そんな新人が多い病院、病棟でも事故が少なく済んでいるのは看護管理に力ともいえると思うので、看護管理者の位置づけや職位、その管理活動の実態がわかると何か糸口が見えるのではと感じている。</p> <p>研究活動では、塩尻美智子さんにお助けいただきインタビューを実現することができた。この施設で生活している子どもは、生きること、そして学ぶことの支援を受けて明日、将来、夢へとつながっていることを目の当たりにできたことは、本当に素晴らしいことだと思った。もう少し長く滞在できるとより理解が深まったかなと思うが、限りある時間の中だったので、次回の機会にと思う。</p> <p>塩尻ご夫妻、長期ボランティアさん、大学生などと共同で過ごす楽しさは本当にかげがえのないものだった。つたない英語の私でも支えてくださり、多くの方々がとてもサポートイブで私にとっては短い時間ではありましたがとても良い時間となった。</p>
意見・改善点など	

氏名	19歳女性 大学生
活動期間	約1ヵ月 (2018年2月6日 ~ 3月4日)
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> ・エンブ:授業参加、運動会参加、 ・マキマ:カニョンガ小学校での贈呈靴の配布の手伝い、数学、日本語、英語の授業、エイズ孤児院での映画の上映、栄養ドリンクの配給、テスト勉強のサポート ・エナ:病院視察 ・RESCUE CENTRE(貧しい子供への給食配給団体)の手伝い ・天理プライマリーの隣の孤児院での手伝い、交流 ・カンガルー女子高で日本文化に関する授業 ・クラウドファンディングのための情報収集 ・ホームステイ ・サファリ参加 ・青年海外協力隊の方々との交流 ・ナイロビ市内観光
感想	<p>本当に今、ACEF に会うことができ良かったと思っています。私はもともと、「国際協力」とか「途上国の支援」に関心があり、グーグルで「アフリカ ボランティア」と検索し、様々な団体を比較検討したところ一番安かったので ACEF のボランティアに参加させていただきました。(笑)</p> <p>この渡航の目的のひとつとして「自分が本当にお金の保証もない、身の安全も保障されないような環境であってもつらい思いをしている人を助けるために人生を使いたいのか」を現場、実際にそうしてきた塩尻さんたちを見て、確認することがありました。</p> <p>1 か月塩尻さん夫妻と生活させて頂き、たくさんのことを学ばせていただきました。アフリカという日本人にとって馴染みのない場所で食べ物や虫やトイレやケニア人に苦戦しながら生活してきたことは自分にとって大きな影響を与えていると思います。</p> <p>しかし、それよりも塩尻さん夫妻に出会えたこと、お二人から一か月で学んだことの方がはるかに私にとっては価値のあるものです。</p> <p>こういった方がいるということが強く私の背中を押してくださいました。普通にお金のために就職していく道に疑問を感じながらも、その道から外れることに恐怖を感じていた私に「ゼロからでも生きていける」ということを教えてくださいました。</p> <p>具体的に自分が今後どう動いていくべきなのかまではわかりませんが、ケニアでの経験を「いい経験をした」で終わらせないようにしていきたいです。</p> <p>塩尻さん、小椋さん、関わって下さった皆さま本当にありがとうございました。</p>